

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。 実践項目（1）基礎学力の定着 （2）さわやかな挨拶の励行 （3）部活動の充実 （4）環境美化の推進	
2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・各教科の習熟度別授業や少人数授業が学習の理解につながっていると、生徒・保護者の大多数が回答している。この結果より、現在実施している授業形態が受け入れられ、基礎学力の定着には有効であると考える。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎学力の定着 ◇個々の生徒の学力伸長	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、学年会、各教科の連携・協力体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
（1）指導内容の重点化、明確化 （2）基礎学力の定着に向けた独自教材の開発や授業改善の取組	（1）授業を理解できる生徒 （2）教材開発に取り組む教師	70%以上 80%以上
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎時間の学習目標の提示により、学ぶ内容を明確にし、授業に対する意欲や関心を高めた。 ・少人数指導（T.T.、習熟度別、選択授業）を実施し、効果的な学習指導に努めた。 ・各教科において、基礎学力の定着に向けた教材開発や授業改善に取り組んだ。	①学習目標の提示、内容の明確化 ②学習に対する意欲・関心・態度 ③教材開発、授業改善の取組	Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D
11 成果 ○授業の始めに、本時の学習目標を示し、生徒が学習内容を前もって理解し、見通しをもって取り組める指導が定着した。 ○少人数指導においては、特に「習熟度別授業」において、「学習内容を理解できる」と学習実態調査で回答した生徒の割合が多く、効果が表れている。 ▲学習実態調査から、日々の家庭学習に取り組む生徒が少ない状況が明らかになり、家庭での学習習慣を身につけさせる指導が必要である。		総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策 ・基礎学力の定着に向け、各教科において、独自教材の開発や授業改善に継続して取り組む。 ・主体的学習態度の育成のため、学習意欲が高まる工夫と指導を行い、さらに家庭学習の習慣化を図る教材を開発する。 ・授業規律を徹底し、生徒が自ら学び、集中して授業に取り組める環境を確立する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

【意見・要望・評価等】

- ・今後も生徒の学習姿勢と学習環境を整える取り組みを継続してほしい。
- ・ICT活用の重要性は分かるが、職員の準備・業務の多様化による負担は大丈夫なのか。
- ・アンケートでは「選択授業、少人数授業による理解」が高評価を得ている。効果的な学習指導をしていると思う。

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。 実践項目 (1) 基礎学力の定着 (2) さわやかな挨拶の励行 (3) 部活動の充実 (4) 環境美化の推進
----------	---

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるという点及び学校が服装、頭髪等の指導を行っているという点については、生徒、評議員・保護者共に全体として前年度より評価が微減した。 ・教育相談係が、個々の生徒に対して適切な指導を行っているについても、評議員・保護者の評価が全体として微減した。 ・いじめや差別を許さず、厳しく対応しているについても、生徒、評議員・保護者ともに昨年度より全体として評価が微減した。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的生活習慣の確立 ◇人権意識の深化 ◇安全意識の高揚 ◇教育相談の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導部と学年、担任が連携し、情報の共有と迅速な対応をおこなう。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業規律の確立(服装、挨拶、遅刻等) (2) 問題行動を起こした生徒への特別指導の実施 (3) 年間を通した、学校周辺での交通安全指導 (4) MSリーダーズ活動の充実 (5) いじめ等に対する的確かつ速やかな対応 (6) 教育相談担当教諭によるカウンセリング及びSC等の積極的活用	(1) 遅刻数の減少、2分前行動の徹底 (2) 特別指導後の改善状況 (3) 自転車運転マナーの向上、事故件数の減少 (4) 自ら挨拶のできる生徒数増加 (5) いじめ件数といじめへの対応の検証 (6) カウンセリング後の生徒の様子	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 予鈴とともに教室に行き、授業の準備を促す。服装を整えさせ、授業の挨拶を行う。 (2) 特別指導において、自らの行いや生き方を問うための作文指導と、学校生活を再チェックするための生活日誌を実施する。 (3) 年間を通しての交通安全指導および、生徒・職員による定期的な交通安全指導を実施する。 (4) MSリーダーズや生徒会等による「ひびきあいの日」およびPTAによる挨拶運動を実施する。 (5) 生徒理解会議や迷惑調査等による事前の情報共有と、発覚時の迅速な対応に努める。 (6) 教育相談担当者とSC等によるカウンセリングで得た情報をもとに、学校内外の関係機関とも連携する中で、最善の方法を模索・実践する。	(1) 教員、生徒の授業2分前行動、授業時の服装指導の状況 (2) 特別指導後の生徒の改善状況 (3) 自転車運転マナーの向上、自転車事故件数の減少 (4) 挨拶ができる生徒の増加 (5) いじめ件数と、いじめ対応後の生徒と取り巻く環境の変化の度合い (6) 相談に訪れた生徒のその後の様子	A B C <b>(D)</b> A <b>(B)</b> C D A <b>(B)</b> C D A B <b>(C)</b> D A <b>(B)</b> C D A B <b>(C)</b> D

11 成 果 課 題	<p><b>【成果】</b> 今年度より、生徒指導部では生徒自身が自らを見つめ、自身の行動を意思決定していくための力（自己教育力）を高める指導として、カウンセリングマインド（「自己一致」「共感的理解」「無条件の肯定的配慮」）を踏まえた生徒との関わり（関係作り）を教員全体に呼びかけた。これは、生徒自身が抱える問題が多様化・複雑化・深刻化する中で、従来の画一的な指導では対応できない現状を踏まえた取り組みである。その結果、少しずつではあったが、自らを省み、教師の言葉に耳を傾け、行いを改め始める生徒が多数現れた。</p> <p><b>【課題】</b> 授業中の私語・立ち歩き・他事・身だしなみ等の問題もあるが、生徒自身が「こころ」に抱える問題は年々深刻化している。「カウンセリングマインド」を踏まえた生徒との関わりと関係作りは、重要課題である。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A B <b>○</b>C D</p>
------------------------	---	---------------------------------------

12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 授業規律や身だしなみ等の指導を、生徒との関係作りを踏まえて実施する。保護者の協力を得られる方策を検討する。</p> <p>(2) 生徒の実態や問題行動の内容を踏まえた、より効果的な特別指導を模索・実践する。</p> <p>(3) いじめの対応について研修等を通じて学び、よりの確な対応が図れるようにする。</p> <p>(4) カウンセリングマインドを踏まえた生徒との関係作りを、職員研修等を通じて学び、実践する。</p>
----	---

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生方が日々苦勞しながら生徒の指導をしていることがよくわかるが、その苦勞の中に来年度に向けてのヒントがあるはずである。今年度やって良かったこと、やれたら良かったことを改めて精査し、全職員で共通理解できるとよい。</li> <li>先生一人一人の「マンパワー」が重要な学校である。これを高めるための様々な取り組みをしてもらいたい。</li> <li>職員が連携して、生徒に対するカウンセリングマインドを踏まえた声かけを大切にしてほしい。</li> </ul>
---

(様式2)

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立山県高等学校

学校番号

16

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。 実践項目 (1) 基礎学力の定着 (2) さわやかな挨拶の励行 (3) 部活動の充実 (4) 環境美化の推進	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・本校の進路指導については、保護者及び生徒から概ね肯定的な評価を得ている。特に進路情報の提供については高評価が約85%である。進路希望に沿った適切なアドバイスをすることについても高評価が80%を超えている。「わからない(評価E)」との回答が昨年は上昇していたが、今年はやや減少し保護者で約7%、生徒で約5%である。特に地域創生キャリアプランナー制度を活用して、企業の求める人材に対する個に応じた進路指導をすすめていきたい。1,2年生の保護者及び生徒に対する情報の提供と説明について、さらに充実させていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇3年間を通じた進路ガイダンスや進路体験学習の充実を図る。 ◇個に応じた進路選択ができる積極的な進路相談を推進する。 ◇全職員の共通理解と協力体制のもとでの進路指導の充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	早期から学年や他の分掌との連携・協力のもと、全校体制で生徒の進路実現へ向かう。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 個に応じた進路指導 (2) 進路ガイダンスの充実 (3) 進路体験学習の充実 (4) 進学補習の充実	(1) 生徒の進路実現 80%以上 (2) 進学補習への参加率 75%以上 (3) 進路講話、ガイダンスの取組状況 生徒アンケート (4) 地元企業・施設研修の取組状況 生徒アンケート (5) 特別面接指導での取組状況 外部の意見	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 個に応じた進路指導 年間を通しての補習、小論文指導、進路相談会 (2) 進路ガイダンスの充実 (1)進路ガイダンス 1年12月、2年1月 (2)先輩と語る会 3年6月 (3)3年進路、就職ガイダンス 7、8月 (4)3年特別面接指導 8月 (5)1,2年生進路講話 10月 (6)3年生の体験報告 1月 (3) 進路体験学習 (1)夏休み進路体験(職場訪問、オープンキャンパス) 2年夏休み (2)地元企業・施設研修 3年6月(3日間)	① 生徒の進路実現 ② 補習、小論文指導の実施 ③ 面接指導の実施 ④ 進路ガイダンス、講話の実施	A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○地元企業・施設研修を通じて、生徒が職業意識を高め、希望に沿った進路先に決定できた。 ○各クラス担任に企業の求める生徒像の分析を知らせたことが、適切な指導につながった。 ○就職希望者に対する面接指導では、学校職員、外部講師、学校関係者(PTA役員、学校運営協議会委員、同窓会役員)の協力を得て、充実した実施ができた。 ○2年生の進路ガイダンスや企業フェスへの参加により、進路意識が高まった。 ○保護者懇談時の進路相談会や補習など、希望に即した行事への参加生徒が増加した。 ○就職・進学の受験報告書が提出されることで、次年度以降の参考資料として活用できる。	
		総合評価 A B C D

	▲早期から進路活動ができるように進路意識の向上をはかる。	
12	来年度に向けての改善方策案 (1) 就職・進学関係の1年間の流れを共有し、見通しをもたせて生徒への指導ができるようにする。 (2) 生徒の希望に沿った進路相談会、補習についてさらに充実できるように工夫する。 (3) 3年生の地元企業・施設研修がより実りある研修となるよう考える。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内初となる普通科での工業系企業実習が上手くいくとよい。実習への不安もあると思うが、生徒には責任をもって取り組んでほしい。</li> <li>・ 生徒が将来何をしたいかを早めに決め、長所を引き出せるとよい。</li> </ul>
---

(様式2)

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立山県高等学校

学校番号 16

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。 実践項目 (1) 基礎学力の定着 (2) さわやかな挨拶の励行 (3) 部活動の充実 (4) 環境美化の推進	
2 評価する領域・分野	◇家庭・地域との連携	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携に関して、「一斉配信メールサービスは有効に活用されている」(96.7%→93.5%)は、微減したものの評価は高い。「学校の教育方針や指導の内容を保護者(地域)へわかりやすく伝えている」(89.4%→75.7%)、「ホームページ等で様々な情報を伝えている」(95.9%→85.3%)、「学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている」(88.6%→72.4%)、「学年通信やクラス通信をとおして、主体的に進路を選択し、決定できる能力の育成を図っている」(87.8%→76.4%)は、昨年と比較し、大幅に評価を下げている。学校からの連絡文書等の伝え方については工夫をする必要がある。</li> <li>・地域との連携に関しては、「地域に開かれた学校づくりの取組」(88.7%→80.5%)減少傾向にある。</li> <li>・昨年度と比べ、今年度はアンケート全体をとおして「わからない」の回答が増加した。生徒及び保護者等へのわかり易い内容でのアンケート実施が不可欠である。</li> </ul> 情報発信については、昨年同様に取り組んでいるが、部活動やボランティアなどの生徒の活動人数が減少したことで、ホームページ等の閲覧者が限られてきているのも関心の低下に繋がっていると思われる。特別活動の活性化をし、山高の魅力を内外にアピールしていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇家庭や地域との連携の強化 ◇地域行事への積極的参加 ◇地域への積極的情報発信	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部の情報担当を中心に、各分掌、各学年と連携を取り、メール配信やホームページを通じて、充実した情報発信を続けていきたい。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校行事への保護者の参加 (2) 各種広報物配信、HPの充実、メール配信 (3) 地域行事への積極的な参加 (4) 学校間交流の実施	(1) PTA総会、行事出席率 20%以上 (2) 各種広報物の発行回数、新聞取材回数 HPの更新回数月3回以上、外部からの声 (3) 地域行事への参加回数、外部からの声 (4) 学校間交流の実施回数 年間5回以上	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) PTA総会、芸術鑑賞への保護者の出席、挨拶運動、山高祭バザーへの保護者の協力。 (2) 広報の充実(山高だより、学年通信、中学校に広報ボード、新聞記事の校内掲示)、メール配信、HPの更新。 (3) 川祭りボランティア、地域清掃ボランティア、高齢者との交流、警察との連携活動。 (4) 読み聞かせボランティアで保育園、小学校と交流、吹奏楽部が「川祭り」などで演奏活動、科学研究部の小学生理科実験講座。	①PTA総会出席率約20%、挨拶運動年6日、山高祭バザー盛況 ②学校評価の向上、HPの更新回数継続(月3~4回)、新聞記事数(10回)、メール配信数増加 ③地域ボランティア、施設訪問、警察との連携に積極的に活動 ④保育園、小学校、中学校、地域との交流活動を積極的実施(10回以上)	A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D

11 成果・課題	<p>○一斉配信メールでは自然災害対応などの緊急の連絡は、細めに配信し、普段の学校行事案内、定期考査や試験、各種検定、月間行事予定ホームページ掲載などのメールも随時配信している。ホームページの更新回数は、新規の記事掲載が約100本(昨年130本)であった。働き方改革も考慮し、担当者の負担を抑えたレベルで多くの情報を発信できた。ホームページの閲覧者数は1日平均70件(昨年およそ70件/日)となった。</p> <p>○地域のボランティア活動、介護施設訪問、保育園や小中学校との交流活動、近隣中学校との部活動合同練習、吹奏楽部の依頼演奏増加など、参加している生徒には高評価をいただいている。今後、参加人数を増やしていきたい。</p> <p>○山高祭バザー、PTA総会、挨拶運動などの各種行事に、役員の方には積極的に参加していただき、行事をスムーズに進めることができた。</p> <p>△近隣の8中学校に学校紹介の掲示板(広報ボード)を設置していただき、定期的に更新し学校のPRに努めた。記事のデザインを見直し、興味を持ってもらえる内容に変更した。また、学校行事や生徒の活動のごとに、新聞社に取材依頼を送り、できる限り生徒の活躍を新聞に取り上げていただけるよう努力している。掲載件数は11件(昨年度9件、校長室と職員室前の廊下に『山高生の活躍』として掲示中)</p> <p>○今年度入学生から普通科単位制となり、5つのタイプの準備が本格化した。それに伴うデュアルシステム(企業実習)や各機関における校外実習などの実施に向けて、多岐にわたり助言や提言、協力、援助をいただいている。</p> <p>▲PTA総会、学校行事等への保護者の参加は、年々、減少傾向にある。各種行事の内容を見直し改善することで保護者の参加を増していきたい。</p> <p>▲地域における本校への信頼度はまだまだ高くはなく、地域や保護者に向けて多様な情報をより継続的に発信していく必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 近年、部員の減少が問題となっている部活動については、今年度末に部の精選を行い、指導体制を強化することで活性化を図りたい。また、令和2年度から実施される類型学習についての情報発信も積極的に行うことで、生徒及び保護者等の学校への関心を向上せたい。</p> <p>(2) 地域行事への参加、地域の学校との交流など校外活動に積極的に出かけ、その様子を新聞や地域の広報誌等に記事として取り上げてもらえるよう更に働きかける。地域との連携や開かれた学校づくりの取組を保護者や地域に認知していただき、本校に期待を持ってもらえるよう努めていきたい。</p> <p>(3) 保護者や地域の方々に、学校へ来ていただき、学校の教育活動を理解していただける機会を多く企画する。</p> <p>(4) 「山県高校の生徒の未来・学校の未来のため、地域とともに魅力と活力ある高校づくりを行う」をスローガンに「山高MIRAI(未来)プロジェクト」の取り組みが3年目となった。普通科単位制の5つのタイプの学習も始まり、今後も様々な面で支援をお願いし、アイデアをいただくと同時に、今まで以上に生徒を積極的に地域活動に参加させ、連携を深めていきたい。</p>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

### 【意見・要望・評価等】

- ・将来、この地域を担うのは山県高校の生徒やこの地域で働く若者である。山県市と連携し、山県高校の生徒が積極的に地域に残って、市のために働ける制度を作っていきたい。
- ・他にない山県高校ならではの特徴は、生徒が生き生きと学び、社会で貢献できる力をつけ、成長できる学校であり、更なる発展を願う。